

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY

平成23年10月10日（月）～10月16日（日）〔平成23年第41週〕の感染症発生状況

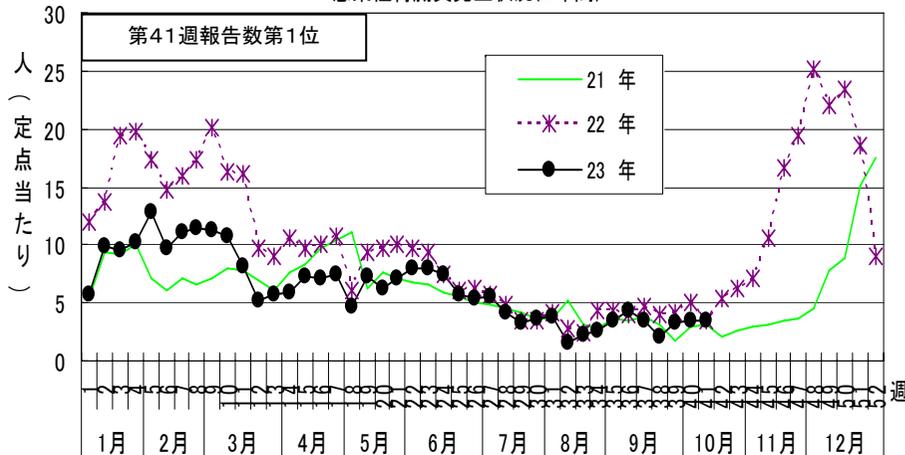
第41週で患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)手足口病 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。

感染性胃腸炎は定点当たり3.39人と前週(3.52)より患者報告数はやや減少しています。例年の傾向から、今後11月から12月にかけて、患者報告数が増加すると推測されますので、これからの発生動向に注意が必要です。

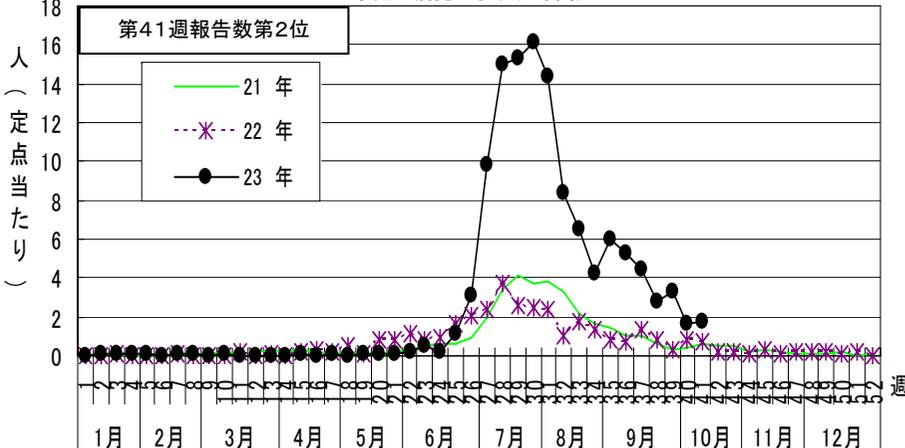
手足口病は定点当たり1.73人と前週(1.64)より患者報告数はやや増加しており、過去10年間の同時期と比較すると、今年は最も多い報告数となっています。

デング熱の発生届が1件(推定感染経路：蚊からの感染、推定感染地域：インド)ありました。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



手足口病発生状況(3年間)



マイコプラズマ肺炎ってどんな感染症！？～報告増加中～

マイコプラズマ肺炎は、肺炎マイコプラズマ(生物学的には細菌に分類される)を原因とする感染症で、5～12歳の小児で多く感染がみられます。今年は右下のグラフのとおり、全国的に非常に多い報告数となっていますので、今後注意が必要です。

どんな感染症？

マイコプラズマ肺炎は通年報告されますが、特に晩秋から早春にかけて報告が多くなります。

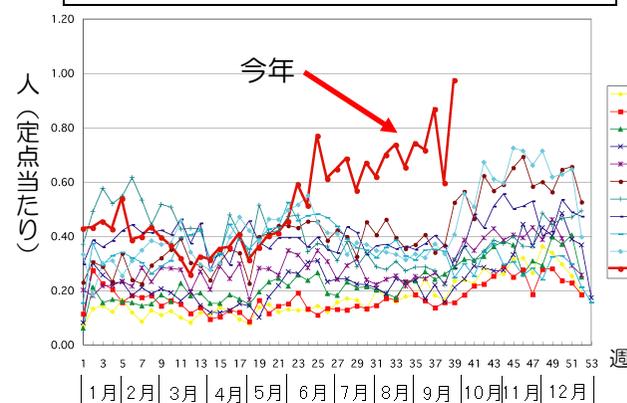
また、感染により抗体が獲得されますが、生涯続くものではなく徐々に弱まるため、再感染することがあります。

どんな症状？

潜伏期間は通常2～3週間で、咳が長期にわたって続き、発作性に夜間や早朝時に強くなる特徴があります。その他に発熱・のどの痛み・鼻水・頭痛・胸の痛みなどもみられますが、肺炎にしては症状が軽いことが多いとされています。

ただし、小児では重症例や合併症も多いため、注意が必要です。

マイコプラズマ肺炎発生状況(全国)※過去10年間との比較



治療・予防方法

抗菌薬による治療が可能で、一般に予後は良好です。また、比較的軽症で自然に治癒することもあります。

予防としては、流行期の手洗い・うがい及び患者との濃厚な接触を避けることが大切です。